

ものづくり
で輝く
原石 川俣町の

高校生ものづくりコンテスト2016東北大会

木材加工部門優勝

福島工業高校建築科3年

佐藤天

たかし

さん

(小綱木・18歳)



木に触れた瞬間 緊張が消えた

高校生ものづくりコンテスト2016 東北大会木材加工部門で優勝し、11月に北海道で開催される全国大会への切符を手にした佐藤天さん。

佐藤さんは、2年前、福島県立福島工業高校建築科に入学し、木材加工技術を磨く工業美術部に志願して入部、3年間、毎日欠かさことなく木に向き合い、自らの技を磨いてきました。

顧問の菅野幸一先生は、佐藤さんについて「入学したころは、他の生徒より木材を（印をつける墨で）よく汚す子だという印象で、突出して技術が高いわけではありませんでした。しかし、性格は寡黙で、本当に粘り強い。3年間、誰よりも積み重ねた努力が、今回の東北大会優勝という結果につながっているのだと感じます。今となっては彼が加工した木材は、見たただけでわかりますよ。加工した部分が、本当



▲高校で作業中の佐藤さん。道具使いは素人が見ても見事。

に丁寧できれいなのです。そして、彼は3年間1度も練習を休んでいない。これは家族の献身的なサポートもあっての結果でしょう。全国大会はもちろん、これからの人生がとても楽しみみです」と話します。

佐藤さんが出場する木材加工部門は、のこぎりやのみ、かんなどを使得、見本で示されている木造小屋の屋根の一部を2時間30分の制限時間内に作成し、加工技術や組み立ての完成度を競うものです。

佐藤さんは、作品の正確さや加工の技術はもちろん、心身と道具がまさに一体となったような道具の扱い方が高い評価を受けました。

「大会では最初は緊張しましたが、やっているうちにすごく楽しくなってきました。やっぱり木を加工することが大好きだから…。全国大会まで大好きな木材加工が続けられることが、何より嬉しいです」と話す佐藤さん。

11月に北海道で開催される全国大会の目標を聞くと「優勝したいです。東北大会の結果を見て、幼稚園からの幼馴染である今泉君が旋盤部門で優勝したことを知りました。今泉君と一緒に全国大会で優勝したいと思っています。部門は違えど結果は比較されてしまうので、今泉君の存在は、今では良

佐藤さんが東北大会で作成した作品▶



いプレッシャーになっています」と佐藤さんは話してくれました。

風呂の薪木から おばあちゃんのイス

「大工さんってかっこいいな」。佐藤さんがそう思うようになったのは、幼稚園に入園した頃でした。

近所で家の建設が行われていると、何度も足を運び、時を忘れるようにその現場を眺めていたと言います。

そして、6歳になる頃には、家を建てるかっこいい「大工さんになりたい」という夢を抱くようになりました。小学生になってもその夢は変わらず、ある時、自分で木を加工してみたいという思いが湧いてきたそうです。

しかし、身近に適当な材料があったわけでもなく、佐藤さんが目をつけたのが、自宅の風呂を沸かすために家にいつもあった薪木でした。

ちょうど良い材料を見つけた佐藤さんは「まずは簡単なイス。この木でおばあちゃんにイスを作ってあげよう」と考え、早速製作に取り掛かった

そうです。

「いま見ると、イスはひどい出来栄でした…（笑）。でも、そのイスは今でも大切に倉庫で眠っています」と佐藤さんは笑顔で話します。

小さいころからの遊び心は今でも健在で、最近では、家で不要になった二段ベットを解体し、テレビ台に加工したそうです。

いつの日か 自分で考えた家を

佐藤さんの将来の夢は、設計も施工もできる一級建築士です。

その夢の実現のために、高校卒業後は、木材加工技術を更に高めながら、一級建築士になるための勉強ができる大学への進学を予定しています。

佐藤さんは「いつになるかわかりませんが、自分で設計した家を両親に建ててあげたいと思っています。そのためにも、これからも木と向き合いながら、しっかりと勉強して、小さいころからの夢を叶えたいです」と、力強く語ってくれました。

名前の由来である天の川のように、佐藤さんはこれからも寡黙に、そして力強く、大きな夢に向かってまい進していくことでしょう。